

昭和63年5月

会員各位 殿

(社) 日本O・R学会中国・四国支部

支部長 権 藤 元

昭和62年度中国・四国支部事業報告、収支決算並びに
昭和63年度事業計画、収支予算送付の件

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

当支部につきましては、日ごろ格別のご支援ご協力を賜わり厚くお
礼申し上げます。

さて、去る4月22日「昭和63年度定期総会」を開催し、標記につ
き審議承認されましたので、ここに同書類を同封にてお届けいたし
ます。

つきましては、なにとぞご高覧のうえ、今後一層のご協力、ご支
援の程お願い申し上げます。

敬 具

(社)日本O・R学会中国・四国支部
昭和63年度支部総会次第

1. 開 会 の 辞
2. 支 部 長 挨 拶
3. 昭 和 62 年 度 事 業 報 告
4. 昭 和 62 年 度 決 算 報 告
5. 監 査 報 告
6. 昭 和 63 年 度 支 部 役 員 の 選 出
7. 昭 和 63 年 度 事 業 計 画
8. 昭 和 63 年 度 予 算 計 画
9. 事務局移転に伴う支部規約変更の件
10. 新支部長挨拶
11. 昭和64年度春季研究発表会の件
12. そ の 他
13. 閉 会 の 辞

時：昭和63年4月22日(金) 11:00～

於：中国電力(株)

(社)日本O・R学会中国・四国支部 昭和62年度事業報告

1. 総 会 1 回

日 時：昭和62年4月24日（金） 11:00～12:00

場 所：中国電力㈱

議 題：昭和61年度事業・決算報告，昭和62年度支部役員選出
昭和62年度事業・予算計画

2. 役 員 会 1 回

日 時：昭和62年4月24日（金）

場 所：中国電力㈱

議 題：昭和62年度支部総会の件

3. 幹 事 会 3 回

①日時：昭和62年3月24日（火）

場 所：中国電力㈱

②日時：昭和62年4月24日（金）

場 所：中国電力㈱

③日時：昭和62年12月4日（金）

場 所：白島会館

4. 講 演 会 3 回（内、定例講演会1回）

①日時：昭和62年7月17日（金） 15:00～17:00

場 所：中国電力㈱

演題：『スケジュールリング理論は役に立つか』

講師：石井博昭氏（大阪大学 工学部）

②日時：昭和62年11月13日（金） 13:30～16:30

場 所：中国電力㈱

（3件）

i) 演題：『分類型エキスパートシステムの開発』

— ソフトウェア常識集 I R システムへの適用 —

講師：橋本 肇 氏（日立製作所）

ii) 演題：『計画型エキスパートシステムの開発』

— 厚板出荷沿岸作業計画への適用 —

講師：山川 栄樹 氏（川崎製鉄）

iii) 演題：『エキスパートシステムに期待するもの』

講師：鈴木 道夫 氏（電力中央研究所）

③日時：昭和63年2月22日（月） 13:00～15:00

場所：マツダ^(株)

演題：『在庫管理における階層多目的意思決定支援システムについて』

講師：野村 淳二 氏（松下電工^(株)総合技術研究所）

（O・R学会定例講演会）

5. 対話型O R 研究部会（別紙1参照）

研究会 11回

6. エキスパート・システム研究部会（別紙2参照）

研究会 20回

7. 見学会 1回

日時：昭和62年4月24日（金）

場所：中国電力^(株)

内容：本館総合OAの見学

8. 第8回数理計画シンポジウム開催協力

日時：昭和62年11月5日（木）、11月6日（金）

場所：中国電力^(株)本館2階 大会議場

(社)日本O・R学会中国・四国支部
昭和62年度支部会計決算報告書

1. 貸借対照表

昭和63年2月29日現在

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
現 金	28,915	前 期 繰 越 金	382,458
預 金(1)	298,628	当 期 運 営 残 高	△54,915
合 計	327,543	合 計	327,543

(1) 広島銀行 西条支店

2. 収支決算書

自 昭和62年3月1日
至 昭和63年2月29日

科 目	予 算	決 算	備 考
(収入の部)			
本部交付金	319,000	337,000	定例講演会費含む
預金利息	1,000	860	
その他	0	0	
(1) 合 計	320,000	337,860	
(支出の部)			
会 議 費	50,000	51,265	
講 演 会 費	100,000	82,900	
研 究 会 費	100,000	0	
研究懇談会費	50,000	0	
研究部会費	100,000	98,950	
見学会費	50,000	0	
通 信 費	50,000	48,600	
印 刷 費	50,000	25,000	
交 通 費	90,000	57,000	
事 務 費	40,000	29,060	
雑 費	458	0	
予 備 費	22,000	0	
(2) 合 計	702,458	392,775	
(3)当期運営残高		△54,915	(1) - (2)
(4)前期繰越金		382,458	
(5)次期繰越金		327,543	(3) + (4)

(社)日本O・R学会中国・四国支部
昭和63年度支部役員

					(50音順)
支部長	権 藤	元	(近畿大学)	(新)	
副支部長	貝 川	健 一	(中国電力)	(再)	
(3名)	梶 田	賢 作	(マツダ)	(新)	
	広 瀬	圭 介	(川崎製鉄)	(新)	
支部評議員	青 木	兼 一	(広島大学)	(新)	
(9名)	石 田	徳 孝	(松山商科大学)	(留)	
	尾 崎	俊 治	(広島大学)	(再)	
	佐 伯	祐 治	(川崎製鉄)	(留)	
	佐 藤	洋 一	(四国電力)	(再)	
	住 山	哲 夫	(中国情報システムサービス)	(再)	
	成 久	洋 之	(岡山理科大学)	(再)	
	浜 岡	尊 平	(広島電機大学)	(再)	
	湊 晋	平 二	(松山商科大学)	(新)	
支部監事	増 本	借 二	(中国電力)	(留)	
(2名)	和 田	弘	(ダイセック)	(留)	
支部幹事	井 塚	滋 夫	(川崎製鉄)	(再)	
(13名)	海 生	直 人	(広島修道大学)	(留)	
	金 川	一 夫	(近畿大学)	(新)	
	神 川	正 博	(マツダ)	(留)	
	久保田	洋 志	(広島工業大学)	(再)	
	桑 原	兵二郎	(近畿大学)	(再)	
	尾 崎	正 亮	(中国電力)	(新)	
	鳥 居	裕	(四国電力)	(留)	
	奈 良	宏 一	(広島大学)	(留)	
	平 木	秀 作	(広島大学)	(再)	
	松 富	達 夫	(近畿大学)	(新)	
	光 藤	昇	(松山商科大学)	(新)	
	山 田	茂	(広島大学)	(新)	

(留)留任 (再)再任 (新)新任

(社)日本O・R学会中国・四国支部
昭和63年度事業計画

- | | | | | | | | |
|-----|--------------|-----|---|-----|-----|---|---|
| 1. | 総 | 会 | 1 | 回 | | | |
| 2. | 役 | 員 | 会 | 若干回 | | | |
| 3. | 幹 | 事 | 会 | 若干回 | | | |
| 4. | 講 | 演 | 会 | 4 | 回 | | |
| 5. | 研 | 究 | 発 | 表 | 会 | 3 | 回 |
| 6. | 研 | 究 | 懇 | 談 | 会 | 2 | 回 |
| 7. | 研 | 究 | 部 | 会 | 若干回 | | |
| 8. | 春季研究発表会実行委員会 | 若干回 | | | | | |
| 9. | 会 | 員 | 増 | 強 | 活 | 動 | |
| 10. | そ | の | 他 | | | | |

(社)日本O・R学会中国・四国支部
昭和63年度支部収支予算

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
前期繰越金	327,543	会 議 費	50,000
本部交付金	357,000	講 演 会 費	100,000
預金利息	500	研究懇談会費	50,000
		研究部会費	200,000
		見学会費	50,000
		通 信 費	50,000
		印 刷 費	50,000
		交 通 費	90,000
		事 務 費	40,000
		雜 費	43
		予 備 費	5,000
合 計	685,043	合 計	685,043

64年度春季研究発表会の件

64年度は本支部の担当で春季研究発表会を開催する年に当たっている。現在、松山商科大学を会場として開催する予定であり、次のメンバーで実行委員会をスタートしたい。

実行委員会委員名簿

(50音順)

石田徳孝	松山商科大学
大橋守	愛媛大学
尾崎正亮	中国電力
金川一夫	近畿大学
権藤元	近畿大学
佐藤洋一	四国電力
穴戸栄徳	香川大学
立田浩之	松山商科大学
平木秀作	広島大学
松富達夫	近畿大学
松野五郎	松山商科大学
光藤昇	松山商科大学
湊晋平	松山商科大学
森作常生	愛媛大学
山田茂	広島大学

以上 15名

なお、第1回の実行委員会で委員長は松山商科大学の松野先生と決まりました。

支 部 規 約 の 変 更

事務局移転に伴い支部規約を下記のように変更する。

(旧)

第 2 条 本支部は、事務所を広島県東広島市西条町大字下見 広島大学工学部 計数管理工学教室内におく。

(新)

第 2 条 本支部は、事務所を広島県呉市広古新開5丁目1番3号 近畿大学 工学部 経営工学科内におく。

(追加)

第 2 9 条 本支部規約は、昭和63年 3月 1日に一部改訂した。

(別紙1)

対話型OR研究会報告

対話型OR研究会 主査 権藤 元

本研究部会はOA時代のORはどんな姿かを中心の話題として、60年6月に発足以来月1回を目安に研究会を開いてきました。第1年度(60年度)には主としてパソコンでもこんなことのできる時代だというテーマをてがけました。第2年度(61年度)には主としてマルチプランによりこんなことができるということを試みてきました。第3年度(62年度)は学会本部の研究部会もかねて開催し、前年度に続きソフトをマルチプランからロータス 1-2-3 へ広げると共に、あらたにORストーリーも対象にし始めました。62年度の各会合の主要な話題を次に紹介します。

回数	年月日/会場	参加者数	主な話題
21	62. 3. 27 日電広島サントピア	10名	マルチプランによる対話型OR
22	62. 4. 22 広島大学工学部	18名	エディターをめぐって
23	62. 5. 26 中国電力	17名	対話型OR研究会の進め方
24	62. 6. 16 IBM広島OAセンター	19名	マルチプランは企業で どう活用されているか
25	62. 7. 21 中国電力	15名	営業所の配電設計業務における ワークステーションの活用
26	62. 8. 26 中国電力	13名	OA化における基本的課題
27	62. 9. 21 日本電気中国支社	21名	マルチプランでどこまでできるか
28	62. 10. 27 中国電力	20名	スプレッドシートは経営にどう役立つか
29	62. 11. 24 富士通プラザ広島	14名	ロータス 1-2-3に慣れよう
30	63. 1. 26 中国電力	13名	ORストーリーは線形モデルから 出光石油化学のLP活用事例
31	63. 2. 22 マツダ	16名	多目的意思決定モデルにいたるまで

以上

(別紙2)

エキスパート・システム研究部会

回数	開催月日	参加人数	内 容
1	5 / 1	14	General Problem Solver (GPS)
2	5 / 8	14	GPSのアルゴリズム
3	5 / 15	14	導出原理
4	5 / 22	13	"
5	5 / 29	13	"
6	6 / 5	14	プロダクション・システムの概要
7	6 / 12	14	プロダクション規則に基づく推論
8	6 / 19	14	知識表現の概要
9	6 / 26	14	意味ネットワークを用いた知識表現
10	9 / 18	14	フレーム表現を用いた知識表現
11	9 / 25	14	エキスパート・システム (構造, 機能)
12	10 / 2	13	" (推論の制御)
13	10 / 9	10	" (推論の高速化)
14	10 / 20	13	" (不確実性での推論)
15	10 / 27	13	" (構築言語およびツール)
16	11 / 10	12	" (知識の利用と獲得)
17	11 / 17	13	" (")
18	2 / 9	13	分枝限定法 (1)
19	2 / 16	13	分枝限定法 (2)
20	3 / 8	13	分枝限定法 (3)